

科目No.	共催講座 RT422a	科目名	労働科学特論a				副題	産業安全保健エキスパート養成コース(安全)			
連携機関名	労働科学研究所	水準	中級	教室定員	25	配信定員	0	講義日時	木金土9:30-11:30, 12:30-14:30, 14:30-16:30, 16:30-18:30(4講義集中)	拠点 (開講機関)	東京・西早稲田(1)労研 (労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所)
科目概要(300字)	職場における安全衛生のプロ(産業安全保健エキスパート)の育成を目指す。安全と健康と職場環境の三位一体的アプローチの体得を促し、異業種間交流、企業間交流の促進を効果的に図るために、講義・グループワーク・ケーススタディ・測定演習などの形式で実践的に集中講義を進め、組織を安全衛生の観点から改革できる人材の育成を図る。受講者は上司の許可を得た業務としての参加を原則とするが、講義に十分参加できる場合は個人的な受講も歓迎する。RT422b、RT422cとの併行受講を推奨する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組み者	講師	所属
共通講座(Ⅰ)	1	オリエンテーション	産業安全保健領域における中核人材(エキスパート)養成の必要性、ならびに中級コースのすすめ方、とくにエキスパートの専門能力(コンピテンシー)とカリキュラムとの関係や養成コースの特徴について概説する。	2015/9/5	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	酒井一博	労働科学研究所
	2	総括的講義/労働安全衛生の動向	マネジメントシステムの普及からもわかるように、労働安全衛生における国際動向を知ることは、企業内での安全衛生活動の長期的なビジョンを作成するためにも重要である。この数年の国際動向を紹介し、近い将来の安全衛生活動の姿について論じる。					
	3	総括的講義/労働安全衛生関連法令	労働基準法、労働安全衛生法を中心に、安全衛生担当者および一般労働者が知っておくべき法令について、事例を元に実践的に論じる。					
	4	経営トップ講義	企業の経営トップを招聘し、経営の視点から労働安全衛生などについて論じる。					
講義	5	ヒューマンファクターにおけるコミュニケーションの重要性	現場におけるコミュニケーションや組織要因が、人間の状況認識、判断、行動にどのように影響するかについて論じる。	2015/9/10	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	施桂栄	労働科学研究所
	6	緊急時対応の実践	職場における「緊急時」の人間行動特性を様々な事例や簡易実験などによって明らかにし、現実場面で効果の期待できる対応策について論じる。					
	7	技術者倫理とコンプライアンス	近年、企業による組織的不祥事が社会問題となっている。組織的不祥事に関する過去の事例から、組織メンバーのコンプライアンスを妨げる組織内外要因について論じる。					
	8	心理測定の基礎 安全文化の本質とその醸成	職場の安全保健活動において、しばしばヒヤリング、アンケートなどの手法が用いられる。これらは本来「心理測定」であり、その使用には「コン」が必要である。その測定原理や厳守すべき手順の基礎について論じる。 チェルノブイリ発電所事故後、世界的に注目されている「安全文化」について、様々な事例に基づきその本質を理解する。さらに、企業における「安全文化」の醸成の重要性、「安全文化」を醸成するための方法、企業の「安全文化」の状態を調査する手法などを論じる。					
演習	9	課題の実施	企業活動の目的・コストなども視野に入れた包括的視点から、何故企業が安全衛生活動に力を入れなくてはならないのかを示し、さらに企業活動の社会的責任(GSR)について考察を深める。	2015/9/11	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	井上枝一郎 細田聡 余村朋樹 施桂栄 藤掛和広	労働科学研究所
	10	事故分析実習						
	11							
講義	12	総合的マネジメントと社会的責任	企業活動の目的・コストなども視野に入れた包括的視点から、何故企業が安全衛生活動に力を入れなくてはならないのかを示し、さらに企業活動の社会的責任(GSR)について考察を深める。	2015/9/12	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	安福慎一	新日鐵住金
	13	安全工学による産業安全向上	機械安全、本質安全とは何か。安全工学の知見をどのように応用すれば、現場における重大事故を未然に防ぐことが出来るかなど、工学的視点による安全性の向上について最新の考え方と情報を提供しながら、実践に役立つ知見を共有する。					
ケーススタディ	14	産業事故の原因を探る	実際に起きてしまった事故事例を取り上げ、事故の経緯、原因、対策についてグループワークを実施する。機械安全の視点、ヒューマンファクターの視点から事故を考察できる力を養う。	2015/11/6	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博 ほか	酒井一博 ほか	労働科学研究所 ほか
共通講座(Ⅱ)	17	実践実習 グループワーク	上級コースにおける実践実習を効果的に行うために、実践実習のテーマ、到達目標、取り組み方法などに関する計画を主にグループワークによって作成する。そのために、受講者が所属する企業全体または職場における安全保健の状況あるいは安全保健に関するニーズを引き出し、その解決に向けた取り組みを実習として行う。					
	18							
	19							
	21	ワークショップ	エキスパートOBの参加も得て、本「養成コースで学んだことを実務にどう役立てるか」というテーマで講義を聴くことや、グループワークによって受講者同士で意見交換することで、知識を、実践に展開するプロセスを通して、異業種交流の実現を図る。					
22								
23								

2015年度後期

知の市場(シラバス)

継続

科目No.	共催講座 RT422b	科目名	労働科学特論b				副題	産業安全保健エキスパート養成コース(健康)			
連携機関名	労働科学研究所	水準	中級	教室定員	25	配信定員	0	講義日時	木金土9:30-11:30、12:30-14:30、14:30-16:30、16:30-18:30(4講義集中)	拠点(開講機関)	東京・西早稲田(1)労研(労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所)
科目概要(300字)	職場における安全衛生のプロ(産業安全保健エキスパート)の育成を目指す。安全と健康と職場環境の三位一体的アプローチの体得を促し、異業種間交流、企業間交流の促進を効果的に図るために、講義・グループワーク・ケーススタディ・測定演習などの形式で実践的に集中講義を進め、組織を安全衛生の観点から改革できる人材の育成を図る。受講者は上司の許可を得た業務としての参加を原則とするが、講義に十分参加できる場合は個人的な受講も歓迎する。RT422a、RT422cとの併行受講を推奨する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属	
共通講座(I)	1	オリエンテーション	産業安全保健領域における中核人材(エキスパート)養成の必要性、ならびに中級コースのすすめ方、とくにエキスパートの専門能力(コンピテンシー)とカリキュラムとの関係や養成コースの特徴について概説する。	2015/9/5	早稲田大学西早稲田キャンパス	酒井一博	酒井一博	労働科学研究所	
	2	総括的講義/労働安全衛生の動向	マネジメントシステムの普及からもわかるように、労働安全衛生における国際動向を知ることは、企業内での安全衛生活動の長期的なビジョンを作成するためにも重要である。この数年の国際動向を紹介し、近い将来の安全衛生活動の姿について論じる。				小木和孝		
	3	総括的講義/労働安全衛生関連法令	労働基準法、労働安全衛生法を中心に、安全衛生担当者および一般労働者が知っておくべき、法令について、事例を元に実践的に論じる。				岩本充史		安西法律事務所
	4	経営トップ講義	企業の経営トップを招聘し、経営の視点から労働安全衛生などについて論じる。				未定		
ケーススタディ	5	職場環境改善を通じた働きやすい職場づくり	一次予防を重視したメンタルヘルスへの取り組みについて、実践的に学習する。最近のメンタルヘルス対策の動向をふまえて話題を提供します。グループワークでは、いじめ・ハラスメントの事例をとりあげ安全衛生スタッフの関わり方について考えます。	2015/9/17	早稲田大学西早稲田キャンパス	酒井一博	吉川徹	労働科学研究所	
演習	7	健康へのアプローチと作業負担の測定	健康の指標の一つとして、さまざまな生理学的測定が用いられている。企業における健康管理や筋骨格系負担の評価、人間工学的なデザインへの適用などの事例を基に健康へのアプローチにおける生理計測の役割やその有効性について、実習を交えながら実践的に学ぶ。				松田文子		
講義	8	新しい精神障害認定基準の解説と対応方法	平成23年12月26日付け「心理的負荷による精神障害の認定基準について」は、事業所の産業保健活動だけでなく人的資源管理にも相当なインパクトを与える内容です。その積極的な面と否定的な側面を、産業精神保健と法律の立場から解説します。	2015/9/18	早稲田大学西早稲田キャンパス	酒井一博	鈴木安名	労働科学研究所	
	9	現代労働者の疲労回復に必要な睡眠条件	前日の疲れがなかなか癒え、毎日十分に休めていないと感じている人が多いのではないだろうか。これらの訴えの背景には特徴的な現代労働の問題があり、その疲労回復に必要な睡眠条件について考える。				松元 俊		
ケーススタディ	10	オフィスエルゴノミクス	この数年、オフィスにパソコンはほぼ完全に普及し、さらにテレワークという新しい働き方によってオフィス以外の場所でのパソコン作業が広がっている。パソコン作業環境や作業手順などの改善に関わる手法を模擬パソコン作業環境の実測実習によって実践的に学ぶ。	2015/9/19	早稲田大学西早稲田キャンパス	酒井一博	斎藤進 北島洋樹 鈴木一弥	労働科学研究所ほか	
講義	12	ユーザビリティ評価の方法	道具や設備機器が「使いにくい」と、作業能率・作業精度の低下や事故、ストレス、疾病を招く。では使いやすい(ユーザビリティ)は、どのようにチェックすればよいのだろうか？ その評価のポイントを具体的に学ぶ。				小松原明哲		早稲田大学理工学術院
	13	増え続ける筋骨格系疾患への対応	職業性筋骨格系疾患のリスクを多様に取り上げながら、予防対策の実際と効果について検討する。筋骨格系疾患予防に役立つ人間工学的な手法についても解説する。				岩切一幸		労働安全衛生総合研究所
	14	産業保健の取り組み-新型インフルエンザへの取り組み経験を活かす-	新型インフルエンザの流行阻止に向けた成功例と失敗例を取り上げながら、今後の産業保健の取り組みについて多様な検討を試みる。				鈴木英孝		EMGマーケティング
共通講座(II)	15	職場における健康リスクの同定と理解	職場に存在する健康リスクはどのようにすれば把握できるだろうか。本講義では疫学の原理を応用して労働者の集団を注意深く観察することによって、職場に存在する健康リスクを発見し、それを理解するための手法を学ぶ。	2015/11/6	早稲田大学西早稲田キャンパス	酒井一博 ほか	毛利一平	労働科学研究所	
	16	実践実習	上級コースにおける実践実習を効果的に行うために、実践実習のテーマ、到達目標、取り組み方法などに関する計画を主にグループワークによって作成する。そのために、受講者が所属する企業全体または職場における安全保健の状況あるいは安全保健に関するニーズを引き出し、その解決に向けた取り組みを実習として行う。						
	17	グループワーク		2015/11/7	早稲田大学西早稲田キャンパス				
	18								
	19								
	20	ワークショツプ	エキスパートOBの参加も得て、本「養成コースで学んだことを実務にどう役立てるか」というテーマで講義を聴くことや、グループワークによって受講者同士で意見交換することで、知識を実践に展開するプロセスを通して、異業種交流の実現を図る。						
	21								
22									
23									

科目No.	共催講座 RT422c	科目名	労働科学特論c				副題	産業安全保健エキスパート養成コース(職場環境)			
連携機関名	労働科学研究所	水準	中級	教室定員	25	配信定員	0	講義日時	木金土9:30-11:30、12:30-14:30、14:30-16:30、16:30-18:30(4講義集中)	拠点 (開講機関)	東京・西早稲田(1)労研 (労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所)
科目概要(300字)	職場における安全衛生のプロ(産業安全保健エキスパート)の育成を目指す。安全と健康と職場環境の三位一体的アプローチの体得を促し、異業種間交流、企業間交流の促進を効果的に図るために、講義・グループワーク・ケーススタディ・測定演習などの形式で実践的に集中講義を進め、組織を安全衛生の観点から改革できる人材の育成を図る。受講者は上司の許可を得た業務としての参加を原則とするが、講義に十分参加できる場合は個人的な受講も歓迎する。RT422a、RT422bとの併行受講を推奨する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属	
共通講座(I)	1	オリエンテーション	産業安全保健領域における中核人材(エキスパート)養成の必要性、ならびに中級コースのすすめ方、とくにエキスパートの専門能力(コンピテンシー)とカリキュラムとの関係や養成コースの特徴について概説する。	2015/9/5	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	酒井一博	労働科学研究所	
	2	総括的講義/労働安全衛生の動向	マネジメントシステムの普及からもわかるように、労働安全衛生における国際動向を知ることは、企業内での安全衛生活動の長期的なビジョンを作成するためにも重要である。この数年の国際動向を紹介し、近い将来の安全衛生活動の姿について論じる。				小木和孝		
	3	総括的講義/労働安全衛生関連法令	労働基準法、労働安全衛生法を中心に、安全衛生担当者および一般労働者が知っておくべき、法令について、事例を元に実践的に論じる。				岩本充史		安西法律事務所
	4	経営トップ講義	企業の経営トップを招聘し、経営の視点から労働安全衛生などについて論じる。				未定		
講義	5	化学物質管理	化学物質は産業現場で様々な利用されており、その有害性や危険性に基づいた管理が求められている。このような化学物質を管理することの意義や仕組み、対策などについて学ぶ。	2015/10/1	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	武田繁夫	武田労働衛生コンサルタント事務所	
講義	6	安全衛生マネジメントシステム	職場における安全衛生マネジメントシステムに関する到達点を明らかにするとともに、効果的なマネジメントについて、グループワークを交えて実践的に考察する。				小島政章	竹中工務店	
講義	7	職場環境測定・評価	職場の環境管理を行うには、有害因子がどの程度存在し、その環境で働く労働者がこれらの有害な因子にどの程度さらされているのかを把握することが必要である。そのために行われる環境測定やその結果の評価について解説する。				名古屋俊士	早稲田大学理工学術院	
ケーススタディ	8	日本の化学物質管理に欠けているもの-GHSから考える	アスベスト問題、放射線問題等、日本において化学物質に関する大きな問題が起きている。これには日本の化学物質管理システムが抱える根本的な問題があるように思われる。講義ではGHSを通してこの問題について一緒に考える。	2015/10/2	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	城内 博	日本大学	
講義	9	職場環境対策	有害な因子による労働者の健康障害を未然に防止するためには、その有害因子を除去するか、それが出来なければその因子のヒトへの接触、関与をできるだけ低減させることが肝要である。このような方策のうち、特に工学的な対策について種々の事例とともに学ぶ。				村田克	労働科学研究所	
講義	11	環境リスクアセスメント	職場における環境リスクアセスメントの要点を、グループワークを交えて実践的に考察する。	2015/10/3	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博	橋本晴男	東燃ゼネラル石油	
演習	12	保護具の有効活用	保護具は、作業環境の改善が難しい現場において、未だに有効な対策である。各種の保護具を実際に着用しながら、その有効活用について学ぶ。				田中 茂	労働科学研究所	
講義	13	熱中症対策	熱中症をなかなか克服できない。熱中症の起こるメカニズムを学びながら、どのような状況で多発するのかを実例によって確認する。グループワークによって職場における実施可能な対策のうち、効果の高い対策について考察する。	2015/11/6	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博 ほか	瀧口好三	新日鐵住金	
ケーススタディ	14	熱中症対策	熱中症をなかなか克服できない。熱中症の起こるメカニズムを学びながら、どのような状況で多発するのかを実例によって確認する。グループワークによって職場における実施可能な対策のうち、効果の高い対策について考察する。				2015/11/7	早稲田大学 西早稲田 キャンパス	酒井一博 ほか
共通講座(II)	15	実践実習 グループワーク	上級コースにおける実践実習を効果的に行うために、実践実習のテーマ、到達目標、取り組み方法などに関する計画を主にグループワークによって作成する。そのために、受講者が所属する企業全体または職場における安全保健の状況あるいは安全保健に関するニーズを引き出し、その解決に向けた取り組みを実習として行う。						
	16	ワークショツプ	エキスパートOBの参加も得て、本「養成コースで学んだことを実務にどう役立てるか」というテーマで講義を聴くことや、グループワークによって受講者同士で意見交換することで、知識を実践に展開するプロセスを通して、異業種交流の実現を図る。						
	17								
	18								
19									
20	21	22	23						

科目No.	共催講座 YB614a	科目名	狭山を学ぶ 教育編a				副題	中学生における経済キャリア教育1(対象:狭山市内中学生・公募)			
連携機関名	狭山商工会議所・狭山市	水準	基礎	教室定員	20名	配信定員	0名	講義日時	土曜日13:00～17:00	拠点 (開講機関)	埼玉・狭山 (狭山商工会議所・狭山市)
科目概要(300字)	狭山商工会議所では2003年以降市内小学校2校に経済キャリア教育を導入し、2007年から中学生向けの経済キャリア教育を公募で実践している。経済をテーマとしたキャリア教育を実践するに当たり民間の企業からプログラムの提供を受け、狭山市内の中学生で「経済」や「産業」に興味を持つ生徒が公募に自ら応じて参加し、自らが考えたビジネスプランを実践し、利益確保を図る。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
はじめに・開校式	1	経済ってなんだ	本コースの開校式～参加者の自己紹介及び企業者の基調講演などを通して経済を取り巻く環境等の時事問題、国際問題等を論じる。 狙い:コミュニケーション能力・社会を見る目、経済に興味を持つ。	狭山市内中 学校公募のた め表示せず	狭山市産業 労働センター 多目的ス ペース(1階)	栗原博文	全編にわたり以下の関係者が講師となる	
計画策定	2	起業のノウハウ	ビズ・キッズについて、経済の流通業を核としたモデルを説明し、チームで起業・役割を決め責任分担を図り組織作りをする。 狙い:コミュニケーション能力を磨きつつ起業や組織について理解する。					
	3	商売の要諦・プランニング	企業者による基調講演を通して企業経営のコンセプトを討議し経営理念や経営計画について紹介する。 狙い:コミュニケーション能力・計画の建て方と目標管理を紹介する。					
	4	仕入れと売り上げ・利益確保 概念・実践	商売の流れと付加価値の付け方、商品の種類と量の選定(仕入)そして商品販売計画などについて解説する。 狙い:コミュニケーション能力・計画の建て方と目標管理を紹介する。					
販売促進と資金調達	5	PR活動・販売促進・資金調達	企業者による基調講演を通して販売促進やPR方法を学ぶとともにビジネスプランや資金調達の方法を紹介する。 狙い:コミュニケーション能力・お金について理解する。					
	6	資金調達 実践	企業者が投資家となり、資金調達としての株の発行や直接金融そしてビジネスプランについて解説する。 狙い:コミュニケーション能力(特に大人との)、ビジネスプランを磨く。					
仕入	7	仕入実践～市場探訪	仕入を実践するため市場の見学などを行う。 狙い:社会と職業の広がりを見る。					
	8	販売準備と販売促進	企業者による基調講演を通して販売促進やPR方法等を理解するとともに準備					
販売	9	実践・販売	現金・現物・現場の3現主義により社会のなかで販売を実践する。					
	10							
	11							
利益と税金	12	集計・利益確保・検証	企業者による基調講演を通して売上集計、経費等計算、利益確保などについて解決するとともに計画と結果との分析・検証を行う。 狙い:目標管理・状況分析の能力の向上を図る。					
	13	税金のシステム	税理士による講話を通して税金について、税制について学び申告の方法を解説する。 狙い:税金～国のシステムの理解する。					
	14	税金と行政	企業者による基調講演を通して行政と税金について税金を集める方法と使う目的について解説する。 狙い:社会システムを理解する。					
まとめ	15	まとめ	各チーム毎に発表し、検証するとともに全体を検証する。					

科目No.	共催講座 YB612b	科目名	狭山を学ぶ ものづくり編b				副題	グローバルブランドを目指す狭山茶の全てを学ぶ			
連携機関名	狭山商工会議所・狭山市 狭山市茶業協会	水準	中級	教室定員	40名	配信定員	0名	講義日時	火曜日10:00~12:00 実習(講義10~12)は土曜 日 13:00~17:00	拠点 (開講機関)	埼玉・狭山 (狭山商工会議所・狭山市)
科目概要(300字)	狭山市は有名なブランドである「狭山茶」の産地である。狭山茶は狭山丘陵で栽培・生産されるお茶の総称で、江戸時代にはすでに江戸でブランド化されており、当時狭山はお茶の生産地域の北限でもあった。狭山市が市政を引くはるか昔から「狭山」という名前を使い、ブランド化してきた狭山茶の魅力を、その歴史と効能から説き起こす。そして、いま生産者を中心に取り組まれている課題や将来への「夢」を示し、現在の狭山茶の姿を明らかにする。これによって、より多くの人々が「狭山茶」を再認識し、今後の狭山茶のブランド力強化につながる。昔は「葉」であった「お茶」を深く良く認識する機会を提供する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属		
開講式	1	開講式・狭山とお茶	開講式。古来お茶は中国から伝えられ、江戸時代は関東圏がその栽培の北限とされてきた。狭山市はその地域に位置し、古くからお茶の栽培が盛んで、「市」としての名称も昭和29年に市制を引いた時に「狭山市」とした。「狭山茶」を歴史的にとらえ、また、現在の産業として、さらに未来に向けての取り組みを学んでいく。	9月開始予定	狭山市産業 労働センター 1階多目的ス ペース	栗原博文 神部圭子		狭山市		
狭山茶の歴史と効能	2	狭山茶の歴史・その1	中国から伝来したといわれる茶が、中世から近世にかけてどのように日本国内に広まっていったのかを振り返りながら、江戸時代後期に誕生した狭山茶について学ぶ。					高橋光昭	前狭山市博物館館長	
	3	狭山茶の歴史・その2	開国とともに急速に発達した狭山茶の生産について触れるとともに、紅茶やコーヒーの登場で国内消費に移行していった経過、機械化への取り組み、霜害に強い品種の登場などについて学ぶ。							
	4	お茶から始まる和食の文化と健康づくり	日本の伝統的な食文化、和食は、世界の無形遺産として登録されるなど再認識されてきた。食文化のルーツを知り、科学的見地から食品の機能(人体に対する食品の作用や働き、栄養機能、健康性・生体調整機能、嗜好・食感機能)の内、お茶から始まる和食の色彩・香り・食感を中心に和食の素晴らしさと、お茶の存在意義を検証し健康づくりに活用する。					長谷川秀夫	NPO法人分析産業人ネット 委員	
	5	お茶の効能と文化	「お茶」の食品としての効能や効果、そしてお茶を中心とする文化的活動などを講義する。					大森正司	大妻女子大学 教授	
現在の狭山茶・生産と課題	6	育てる・つくる・売る	「ものを売る時代」は終わったと言われている。若者の緑茶離れが嘆かれる現在、果たして本当に「お茶」の魅力は果たしていったのか?一人の茶業者として、また、日本茶インストラクターとして受講者と一緒に考える。					奥富雅浩	奥富園代表・日本茶インストラクター埼玉支部長	
	7	伝える・ひろめる・楽しむ	代々家業としての茶業者を後継し、現在日本茶インストラクターの資格を取得、それにより地域の学校(小学校から大学まで)で幅広く日本茶の普及に務めている。自社茶園を持ち一貫した生産～販売の中でなせるお茶の魅力とおいしさなどをできるだけ若い世代に伝えようと奮闘している。その活動を含めお話しする。					宮野圭司	宮野園代表・日本茶インストラクター	
	8	お茶・農産物から世界を見る	茶業者は1・2・3次産業を包括して所有する数少ない業者である。農産物であるお茶の「葉」を加工流通させるためには、多くの分野が必要であるが、日本の農業政策や、国際的な取引に関するTPPIに代表される「政治・行政・政策」について、現場視点でそれらを見て、製造業者としての意見を消費者の皆さんに問う。					古谷 博	古谷園代表・狭山茶業協会会長	
	9	狭山地域から世界へ	狭山丘陵で生産される「お茶」=「狭山茶」を生産販売する事業者として取り組む「狭山茶」作りと、アメリカ市場を見た生産者として感じた「世界の中での狭山茶」の可能性を語る。					平岡忠仁	平岡園	
体験・狭山茶生産	10	狭山茶はこうして作られる1	茶業者の持つ1次産業としての「茶畑」、そこからの収穫後に、いろいろな加工を施す(2次産業)ことにより、お茶の付加価値を上げ、また、性格を変えてゆく。それら一連の流れを学ぶとともに、お茶の製造現場の取組を見学し、生産体験を行う。				現地見学 会場:横田園		横田泰宏	東阜横田園代表
	11	狭山茶はこうして作られる2							横田貴弘	東阜横田園
	12	狭山茶をさらにおいしく楽しむために		農産物であり生き物である「お茶」の知識を本コースで学んできた。それらを踏まえ実践としてお茶の生産を体験し、さらに、生き物である「お茶」のポテンシャルを發揮させ、美味しいお茶を楽しむためのルールを学び実践する。						奥富雅浩 宮野圭司
未来に向けての狭山茶	13	狭山茶の可能性	日本茶インストラクターの資格を持ち、自らが「お茶」を世界に紹介する仕事に携わるとともに、世界中の「お茶」を視察し、愛好家と交流をして情報交換を実践し、さらに日本茶を海外に販売しているスタッフとして「世界のお茶と日本のお茶」を語る。				狭山市産業 労働センター 1階多目的ス ペース		山本春菜	日本茶インストラクター
	14	狭山茶と狭山のブランディング	日本のブランドとしての「日本茶」、世界の中で日本文化の一つである「日本茶」をどのように展開していくべきなのか。狭山市の若手経営者たちが挑むブランディングプロジェクトを紹介する。						吉田徹弥	狭山商工会議所青年部副会長
まとめ	15	まとめ・未来に向けて	本コースでは地域ブランドである「狭山茶」をいろいろな角度から、多くの人の視点で講義を積み重ねてきたが、このコースを総括して、今後の狭山茶の未来を示唆し、お茶の製品としての可能性や、文化としての可能性を模索する。						横田泰宏	東阜横田園代表

科目No.	共催講座JK131b	科目名	防疫薬総合管理				副題	身近な生活・環境害虫防除—世界をリードする防疫薬と害虫防除技術—			
連携機関名	日本環境動物昆虫学会	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	月曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山 (日本リスクマネジネットワーク)
科目概要(300字)	熱帯病による死者は、近年でも全世界で年間500万人に達している。その最大の原因はマラリアで、その他にウエストナイル熱、日本脳炎、黄熱病、デング熱などがあり、いずれも蚊媒介性疾患である。マラリアによる死者は毎年150万~270万人と報告されており、現在、WHOが中心となってマラリアの死者を半減させる運動を展開している。その手段としては、殺虫剤を家屋内に残留処理することやピレスロイド殺虫剤を含有させた蚊帳などの使用でベクターである蚊を防除することである。一方、都市化が進み、風土病、熱帯病が減少した先進地域では人々の快適な生活を維持するために、不快害虫(nuisance insects)などを防除することが不可欠になっている。これらの防除にはピレスロイドなどの安全な殺虫剤が使用されており、これらの薬剤開発では日本が常に世界をリードしてきた。このような防疫薬・家庭用殺虫剤などについて、社会的役割、薬剤開発、使用技術の改良、安全性の確保および技術革新などについて解説する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
昆虫と人間生活	1	歴史を変えた昆虫たち	昆虫が地球上に現れたのは、約4億年前であり、ヒト(猿人)が誕生したのは、約500万年前といわれる。ヒトは誕生した時から必然的に昆虫類と関わりながら生きてきた。ここでは、昆虫類が歴史上偉大な人物や大きな事件に影響を与えた事例について述べ、昆虫と人間がこれまでにどのように関わってきたかを解説する。	2015/8/24	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	安部 八洲男	安部 八洲男	大阪青山大学 健康科学部
害虫の生態と防除	2	衛生害虫の生態とその防除策	虫が媒介する感染症はいろいろある。日本で最も有名なのは蚊が媒介する日本脳炎であるが、海外旅行すると虫が媒介する感染症にかかるリスクが増大する。近年周辺諸国で流行が見られる虫が媒介する主な感染症を紹介する。	2015/8/31			新庄 五朗	日本環境衛生センター 環境生物部
	3	不快害虫の生態とその防除	人が生活している環境にはいやな虫がいる。気持ち悪い、かゆ~い、痛~い虫、アレルギーの原因になる虫、病気を移す虫など様々である。ここでは、どんな虫がいるか、また、それらの虫の被害とその対策について説明する。	2015/9/7				
	4	地球温暖化のリスク	地球温暖化は虫たちの生活にも大きな影響を与えている。虫の生息域が変化している。また、地球温暖化に伴って近隣諸国で流行している感染症が日本へ侵入するリスクも増加している。人や物の移動、更に、渡り鳥の移動なども視点に入れて、温暖化による害虫と健康リスクを一纏に論じる。	2015/9/14				
家庭用殺虫剤	5	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	近年、WHOは感染症媒介害虫の防除にPrimary Health Care (PHC)の重要性を再認識し、推進している。このPHCの中心にある家庭用殺虫剤について、製剤・製品の変遷、並びにそれらの特徴と正しい使い方について概要を述べる。	2015/9/28			吉田 清文	日本家庭用殺虫剤工業会
殺虫剤の化学	6	防疫薬発展の歴史とその役割	農薬(殺虫剤)使用の歴史を概説し、過去における殺虫剤の問題点およびそれを踏まえた殺虫剤(防疫薬)の発展の歴史とその役割について説明する。農薬の発明・開発・上市の流れについても解説する。	2015/10/5			森 達哉	住友化学 健康・農業関連事業研究所
	7	世界をリードしたピレスロイド殺虫剤	除虫菊に含まれる殺虫成分(ピレトリン)の安全性を維持しながら構造を改変したピレスロイドは今やベクター(疾病媒介昆虫)コントロールに無くてはならない存在となっている。人類にとってかけがえのないピレスロイドの発明の経緯について化学構造の変換および効力の特徴の観点から説明する。またどのように発明がなされたのかについても解説する。	2015/10/19				
製剤とその利用技術	8	製剤化の意義と家庭用殺虫剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、代表的な家庭用殺虫剤に関する基本技術について解説する。	2015/10/26			竹林 禎浩	住友化学 ベクターコントロール部
	9	その他の製剤と新規製剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、代表的な家庭用殺虫剤に関する基本技術について解説する。	2015/11/2				
ベクター防除技術	10	世界をリードするオリセツネット(防虫蚊帳)	マラリアはハマダラカという蚊が媒介し、アフリカにおいて貧困の大きな原因となっている。1998年にWHOが中心となり、2010年までにマラリアの脅威を半減することを目的としたロールバックマラリアキャンペーンが開始された。そこでは、防虫蚊帳オリセツネットは感染予防の有効な手段として使用されている。	2015/11/9			庄野 美徳	住友化学 健康・農業関連事業研究所
木材害虫	11	シロアリ防除	シロアリは真社会的昆虫であり、家屋そのものを食害し大きな経済的・社会的損失をもたらすという、家屋害虫の中でも独特の存在である。そのようなシロアリについて紹介しつつ、その防除方法を解説する。	2015/11/16			久保田 俊一	住友化学 生活環境事業部
害虫防除の実際	12	薬剤による害虫防除の課題とPCO(害虫防除専門家)の取り組み	PCO(Pest control operator,害虫防除専門家)がどのような場面で害虫防除に薬剤による防除を選択し、どのような課題を抱えているのかについて、30年間害虫防除に携わってきた経験をもとに述べる。また、今後どのような薬剤が望まれるのかについてもPCOの立場からのべる。	2015/11/30			池尻 幸雄	イカリ消毒株式会社 技術研究所
安全性	13	防疫薬の登録	防疫薬の登録について述べる。日本(薬事法、化審法、毒劇法など)をはじめ、米国EPA(FIFRA)やEU(EUBPD)、その他世界各国の防疫薬登録制度について説明する。	2015/12/7			尾崎 圭介	住友化学 生活環境事業部
	14	防疫薬の安全性	登録に必要な安全性評価の考え方、急性毒性、遺伝毒性、刺激性、アレルギー性、亜急性毒性、慢性毒性、発癌性、催奇形性、繁殖毒性、神経毒性などの試験方と評価上の問題点を解説する。	2015/12/14				
総合防除	15	問題点と今後の方向	人々の生活の都市化や、住宅構造、生活様式などの外部環境の変化や、化学物質の安全性に対する意識の増加などから、防疫薬に対するニーズも変化し、それに対応して防疫薬も変革が必要とされる。ここでは、防疫薬が抱えている今日的問題点と今後の方向について考え、総合防除(IPM)の考え方についても述べる。	2015/12/21			安部 八洲男	大阪青山大学 健康科学部

科目No.	共催講座JK454	科目名	環境基礎論				副題	市民の環境問題入門			
連携機関名	日本リスクマネージャネットワーク	レベル	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	火曜日 18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山 (日本リスクマネージャネットワーク)
科目概要(300字)	21世紀は環境の世紀といわれている。それは変わらないと思われてきた地球環境が大きく変化し、危機的ともいえる局面を迎え、人間と環境との係わりを根本から考え直す必要があるというメッセージである。人間は誕生以来、自然に働きかけ、生活に必要なものを手に入れてきた。産業革命以降、科学・技術の急速な発展により、生活は便利で快適になったが、他方で自然破壊や環境汚染が進み、人間を脅かすようになってきた。その象徴が地球温暖化問題である。これから環境問題について学ぼうとする市民や勤労者に、生活の土台となる地球、水、大気、土壌について、また生活を豊かにしてきた化学物質などについて、最新のトピックや身近な関心事も交え、広く環境問題について講義し、共に考える。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
地球と環境	1	環境問題の歴史	環境問題を考える糸口として、時代の変遷を振り返りながら環境問題の全容を俯瞰し、講義全体を概観する。	2015/9/1	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	宮崎 隆介	石橋 博	日本リスクマネージャネットワーク
	2	宇宙船地球号(1)	環境問題を考える上で基礎になる地球について知るために大気圏、水圏のしくみを解説する。	2015/9/8			宮崎 隆介	
	3	宇宙船地球号(2)	環境問題を考える上で基礎になる地球のしくみのうち、陸圏のしくみについて解説する。また、「生物多様性」とは何か、その重要性和現状を森と木の役割や林野庁の進める「木づかい運動」、「美しい森づくり国民運動」の紹介を通じて解説する。	2015/9/15			宇都 英二	
公害と環境	4	水質汚濁問題	水質汚染の歴史は産業革命にまで遡る。産業の発展と共に川や海が汚れ、人の生活に悪影響を与えてきた。水質汚濁対策の進展で現在では相当改善されてきたがまだ完全ではなく、新しい問題も起きている。水質汚濁問題を日本の状況を中心に、上水道への影響や下水道整備の話を変えて解説する。	2015/9/29			刑部 忠彦	
	5	土壌汚染問題	前半の基礎編では、「土壌汚染対策法」の目的を理解し、その施行状況を概観する。又、「用地及び組織の環境アセスメント:ISO14015」を用いて、事業への影響を決定するプロセスを解説する。次に後半の実践編では、複雑な土壌汚染問題のリスクマネジメントの実践から、その考え方を事例を変えて解説する。	2015/10/6			久保田 俊美 新田 恭司	
	6	大気汚染問題	4大公害裁判の一つ「四日市ぜんそく」から道路環境裁判までの概略と企業・行政の取り組みを述べ、大気汚染の歴史を振り返る。次に環境基準が未達成の「光化学オキシダント」の現状と要因の一つである「越境汚染への取り組み」を紹介する。最近話題の微粒子状物質(PM2.5)や地球規模の大気汚染への取組みも紹介する。	2015/10/13			西村 庄司	
	7	廃棄物処理問題	産業廃棄物と一般廃棄物、不法廃棄、焼却場、廃棄物処理場、ダイオキシン問題、住民運動、海外との関係など廃棄物処理問題の全般について行政の対応を踏まえながら歴史と現況について解説する。	2015/10/20			佐古 勇策	
地球温暖化	8	地球温暖化(1)	地球温暖化のもたらす脅威は世界的な共通認識となり、その対策をめぐって国際的な交渉が続けられている。その共通認識をもたらしIPCCの報告(主として第4次報告書-AR4)について概説する。	2015/10/27			石橋 博	
	9	地球温暖化(2)	我国ではオイルショックなどを通して省エネルギー技術を発展させた。この技術は私たちの居住環境の快適性を格段に向上させたが、一方で設備・機器の量的な普及により熱や有害物質などを周辺空間に排出している。講義では身近なごみやバイオマスに焦点を当て、環境側面からエネルギーの利活用の現況について概説する。	2015/11/10			遠藤 憲雄	
化学物質と食	10	化学物質のリスク管理	化審法、PRTR制度、REACHなどの社会的な管理の仕組みを解説し、会員の仕事を通じて化学物質の環境リスク管理について論じる。	2015/11/17			奥村 勝	
	11	食の安全・安心	食にまつわるリスクとは、生活に最も身近な環境リスクであり、生命に直結する問題でもある。農作物の栽培や家畜の飼育、或いは加工品の製造・開発の段階に始まり、輸送、防疫、保管、購入、更には調理及び摂取の過程に至るまで、極めて広範囲かつ多面的に発生するリスクについて概説し、対処の仕方についても紹介する。	2015/11/24			辻本 晴美	
社会の動き	12	最新の環境技術・環境ビジネスの紹介	豊かな生活を求めて発生させてきた環境問題をクリアするため、環境ビジネスは有望なビジネスとして期待されている。しかし、東日本大震災に続く原発事故は、安全神話と地球温暖化解決の切り札を御旗に原子力発電へ依存を高めてきた日本の環境政策をぐらつかせている。環境技術の果たすべき役割について一緒に考える。	2015/12/1			宇野 健一	
	13	環境法の動き	各講義で出てくる個別法の話をもとめる観点から、主要な環境法の歴史と概要を紹介する。また、日本の法律の歴史的变化と最新の体系、主な国際法規や海外法規の動向についても紹介する。	2015/12/8			牧野 薫	
	14	企業の社会的責任(CSR)	市民の側から企業社会との付き合いを考える視点から企業の社会的責任(CSR)について世界の歴史的背景に触れながら、CS・環境会計・ISO認証取得、CSR報告書など企業の社会的責任(CSR)の現状について解説する。	2015/12/15			古沢 啓一	
まとめ	15	持続可能な社会(循環型社会/低炭素社会)を目指して	講義全体のまとめとして、循環型社会、低炭素社会について考え、持続可能な社会の発展を目指す社会の動きについて解説する。	2015/12/22			宇都 英二	

科目No.	共催講座ZY222I	科目名	動物臨床医学事例研究I				副題	臨床現場に有用な症例検討のあり方2			
連携機関名	動物臨床医学研究所	水準	上級	教室定員	80名	配信定員	0	講義日時	日曜3講義 9:30-11:00、 11:10-12:40、13:40-15:10	拠点 (開講機関)	鳥取・倉吉 (動物臨床医学研究所)
科目概要(300字)	動物医療の中でも伴侶動物医療の近年の発展は目を見張るものがある。しかし、急速な発展の中にはひずみが発生しているのも事実である。医療は生き物的要素があり、急速な変化に対応不能な面もある。この科目では、後期に先がけて臨床獣医学のありようを再考し、原点であるひとつひとつの症例を大事に検証し、そのありようを検討する。受講対象者は獣医師、獣医系大学学生、動物看護師に限る。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
消化器	1	胆泥の意義と治療を考える	腹部超音波検査で胆泥は日常的に認められる所見である。胆泥は健康犬でも認められるとする報告もあり、その意義については不明な点も多い。今回はこの胆泥について定義や病態を整理し、症例を示しながら経過や治療について解説する。	2015/9/13	伯耆しあわせの郷2F大会議室又は動物臨床医学研究所3Fカンファレンスルーム	山根 剛	小出和欣	小出動物病院
症例検討(1)	2	外科的疾患の検討(1)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。				高島一昭 他複数名	動物臨床医学研究所
	3	内科的疾患の検討(1)					増田健一	動物アレルギー検査
神経	4	減感作療法メカニズムから学ぶアレルギー学の要点	アレルギー性疾患の治療に用いられる減感作療法の効果機序はいくつか想定されている。それらを理解することで体内のアレルギー反応を全体的に把握することができるため、治療効果を中心に病態の解説を行う。	2015/10/25			小笠原淳子 他複数名	動物臨床医学研究所
症例検討(2)	5	外科的疾患の検討(2)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。				山根 剛	
	6	内科的疾患の検討(2)		和田優子 他複数名				
循環器	7	循環器疾患の診断・治療	動物の高齢化が進み、後天性心疾患の動物を診察する機会は増加している。その中でも僧帽弁閉鎖不全症は最も多く見られる疾患である。今回は僧帽弁閉鎖不全症を中心に、診断から治療に至るまでを解説する。	2016/1/17			高島一昭	動物臨床医学研究所
症例検討(3)	8	外科的疾患の検討(3)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。				山根 剛 他複数名	
	9	内科的疾患の検討(3)		加藤 郁			加藤どうぶつ病院	
循環器	10	肺高血圧症の診断と治療	肺高血圧は、心臓病の末期症状の1つであるが、実は僧帽弁閉鎖不全症などによく合併している比較的多い病態である。その肺高血圧症の診断と治療について解説する。	2016/2/28			水谷雄一郎 他複数名	動物臨床医学研究所
症例検討(4)	11	外科的疾患の検討(4)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。					
	12	内科的疾患の検討(4)						
歯科	13	獣医歯科学の基礎と診断	小動物における歯科治療のための基礎として、歯の発生から萌出、歯と歯周組織の構造、口腔内疾患を診断するための器具、各種検査方法について解説する。	2016/3/27				
症例検討(5)	14	外科的疾患の検討(5)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。					
	15	内科的疾患の検討(5)						

科目No.	共催講座PT211b	科目名	感染症総合管理1b				副題	感染症対策-ワクチンを中心にー			
連携機関名	国立感染症研究所	水準	中級	教室定員	35	配信定員	0	講義日時	火曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・戸山 (国立感染症研究所)
科目概要(300字)	感染症との闘いの為のヒトの生体防御の働き、および感染を予防する為のワクチンの効能、またワクチンの安全がどのように確保されているのかを説明する。又、その中で感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所が果たしている機能についても解説する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
総論	1	感染と宿主免疫	感染(宿主-病原体関係)における宿主免疫応答とその医療応用に関して、病原体に遭遇した場合のヒトの免疫応答の基礎知識やワクチン等免疫介入治療・予防に関する応用面を概説する。	2015/9/1	国立感染症研究所 戸山庁舎 会議室	阿戸 学	阿戸 学	国立感染症研究所 免疫部部長
	2	次世代ワクチンの開発	ワクチンが何故効くのかその原理と投与方法の総論と次世代ワクチンの候補として粘膜投与型ワクチン、DNAワクチン等の作用メカニズムと効果、開発状況について紹介する。	2015/9/8			長谷川 秀樹	国立感染症研究所 感染病理部部長
	3	感染症の予防とワクチン接種	ワクチンで予防可能疾患の国内及び国外の発生状況、我が国の現行ワクチン接種スケジュール、副反応等を概説し、感染症を予防する時のワクチンの重要性を解説する。	2015/9/15			多屋 響子	国立感染症研究所 感染症疫学センター室長
	4	血液製剤の品質管理	血液製剤として多くのものが使われているが、それらの安全性がどのように保証されているのかの仕組みを紹介する。	2015/9/29			大隈 和	国立感染症研究所 血液・安全性研究部室長
	5	生物製剤の品質管理	ワクチンは健康な人を対象に予防目的で接種されるものである。であるがゆえに、有効性のみならず、安全性には特に注意しなければならない。一方、ワクチンは生き物を使って製造、試験しなければならないという特殊性についても紹介する。	2015/10/6			加藤 篤	国立感染症研究所 品質保証・管理部長
各論	6	世界ポリオ根絶計画とポリオワクチン	WHOを中心にポリオ根絶計画が進められているが、その現状と問題点について、世界的な視点および日本の立場に基づいて解説する。とくに、ポリオ根絶最終段階における、ポリオワクチン戦略にかかわる諸課題について説明する。	2015/10/13			清水 博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	7	肝炎ワクチン	肝炎の発症予防の為のワクチンが開発され、我が国ではA型、B型肝炎ワクチンが任意接種として使用されている。特に、B型肝炎ワクチンの母子感染予防にはたした役割等について紹介する。	2015/10/20			石井 考司	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	8	DPTワクチン	DPT疾患(ジフテリア・破傷風・百日せき)の国内および国外の現状とそれら疾患を予防する為に果たしてきたDPTワクチンの役割について概説する。	2015/10/27			蒲池 一成	国立感染症研究所 細菌第二部室長
	9	麻疹・風疹の現状とワクチン	麻疹、風疹の日本、並びに世界の現状、原因となるウイルスの性状、並びに麻疹ワクチン、風疹ワクチンの開発の歴史、効果等を概略する。また、WHOが勧める麻疹排除計画、風疹排除計画についても説明する。	2015/11/10			駒瀬 勝啓	国立感染症研究所 ウイルス第三部室長
	10	日本脳炎ワクチン	日本脳炎はかつて我が国では多数の小児が発症し、死者、後遺症発症者が多かったが、現在では発症者は希となった。しかし、いままアジア地域では重大感染症の一つであるがワクチンは普及していない。我が国及びアジアにおける日本脳炎の対策、ワクチンの在り方などについて概説する。	2015/11/17			高崎 智彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部室長
	11	肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌は、小児や高齢者に菌血症・髄膜炎などの侵襲性感染症や肺炎、中耳炎等をおこす。肺炎球菌ワクチンには小児用、成人用ワクチンがあるが、これらの特徴や臨床効果について概説する。	2015/11/24			大石 和徳	国立感染症研究所 感染症疫学センター長
	12	結核	結核とはどういう病気か、起因菌の結核菌の特徴およびBCG接種をはじめとする現在講じられている結核対策を含めて概説する。また、結核菌と近縁な菌によるハンセン病についても触れる。	2015/12/1			未定	未定
	13	水痘等のヘルペスワクチン	水痘・サイトメガロウイルスなどのヘルペス科ウイルスによる各種感染症および我が国で開発された水痘ワクチンの現状とその効用について紹介する。	2015/12/8			西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部部長
	14	インフルエンザワクチン	通常の季節性インフルエンザとパンデミック・インフルエンザに対するワクチンに求められる特性には違いがある。現在我が国および海外で認可されているワクチンと両ワクチンとの関係およびワクチン株選定の過程について紹介する。	2015/12/15			板村 繁之	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター室長
	15	ヒトパピローマウイルス	ヒトパピローマウイルス(HPV)は、性行為を介して感染し、子宮頸がんの原因となるウイルスである。近年、欧米にてHPVに対する感染予防ワクチンが開発され、我が国を含む全世界で導入されている現状を紹介する。	2015/12/22			柊元 巖	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター室長

科目No.	共催講座AT231	科目名	農業生物資源特論				副題	バイオテクノロジーで拓く食料、医療などへの農業生物資源の利用と未来			
連携機関名	農業生物資源研究所	水準	中級	教室定員	45	配信定員	45	講義日時	木曜日 18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・四ツ谷 (農業生物資源研究所)
科目概要(300字)	<p>日常食している農作物や畜産物は、多くの先人たちが、何万年もの時間をかけ野生植物や動物を選抜・改良し利用可能にしてきた。近年、イネゲノムの全塩基配列の解読や分子生物学的研究の著しい進展により、ゲノム情報や遺伝子組換え技術を利用した新たな農作物や家畜の開発や利用が進みつつある。また、カイコは絹生産のために長く利用されてきたが、最近では遺伝子組換え技術により有用物質生産など、新産業創出の可能性を示す新たな局面を迎えている。農業に利用されてきた生物資源の改良の歴史やこれまでの社会的役割を概説するとともに、世界的な食料問題等の展望や今後の食料戦略などの解説と、それらの解決を図るための最新の研究内容を紹介します。</p>										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
総論	1	農業生物資源の利用と技術開発～遺伝資源と作物開発の歴史～	私たちは農業からたくさんの恩恵を受けている。イネをはじめとする植物、肉、乳、卵、毛、絹、蜜など動物や昆虫の生産物を食物や衣類として利用している。農業生物資源研究所で研究している様々な生物の概要とその利用の歴史、それを支えた技術開発の歩みについて解説する。	2015/9/3	主婦会館3階 コスモス	広報室 都島 美行	廣近 洋彦	農業生物資源研究所
先端ゲノムの研究	2	農業生物におけるゲノム解析研究の実際	近年のゲノム解析機器の発達には目覚ましいものがあり、今では、多様な生物種がゲノム解析の対象となっている。なぜゲノム解析が必要か、また、ゲノム解析結果をどのように活かしていくのか、などゲノム解析研究の実際を農業生物資源研究所のイネゲノム研究を中心に網羅的に紹介する。	2015/9/10			松本 隆	
	3	ゲノム情報を活用した作物育種研究	ゲノム研究が進んで、作物の品種改良の方法がさらに効率化されている。品種改良において重要な遺伝子をどのように見つけるのか、さらに、見いだした有用な遺伝子をどうやって組み合わせるのか等について、我が国の主要作物であるイネを例に紹介する。	2015/9/17			山本 敏央	
	4	家畜ゲノム研究最先端	高品質で安全な家畜生産に貢献するため、ゲノムデータベースの整備と家畜の改良に有用な遺伝子の解析について紹介する。また、ゲノム情報を有効利用することにより、肉質、生産性、抗病性などを対象とした育種改良についても紹介する。	2015/9/24			美川 智	
	食料状況	5	世界の食料需給と食料確保のために必要な視点	世界の穀物需給をみると、将来の世界戦略が見えてくる。現在の作物生産の動向と遺伝子組換え農作物の占める意味合い、日本がどのくらい海外の穀物に依存しているかを改めて考えながら、新規技術の必要性や可能性について論じる。			2015/10/1	三石 誠司
遺伝子組換えの研究	6	遺伝子組換え生物の開発	遺伝子組換え技術により、現在どのような研究が進んでいるか、農業生物資源研究所で実施している遺伝子組換え技術を利用した様々な研究を中心に紹介する。	2015/10/8			高野 誠	
	7	遺伝子組換え作物の安全性評価	農業生物の潜在能力を最大限引き出すアプローチとして、遺伝子組換え技術には大きな期待がかけられている。遺伝子組換え農作物を商品化するには厳しい安全性審査が求められており、その安全性評価システムについて解説する。	2015/10/15			山崎 宗郎 河本 夏雄	
	8	植物の戦うしくみー耐病性作物開発を目指した取り組みー	植物の病気は作物に大きな被害を与え、その防除には多くの農薬が用いられている。農業に依存しない病害防除のため、未利用の遺伝資源を利用したり、植物が本来備えている潜在的な力を引き出すことを目指した最新の研究について紹介する。	2015/10/22			高辻 博志	
	9	カイコの遺伝子組換え利用ー昆虫利用の新展開ー	カイコは絹糸を生産する家畜昆虫として数千年にわたって利用されてきたが、近年、カイコの遺伝子組換え技術が開発され、また、ゲノム解析も進んでいる。これらを受けて急速に進みつつある昆虫を素材とした遺伝子機能解析研究と新産業創出に向けた利用研究を紹介する。	2015/10/29			瀬筒 秀樹	
遺伝資源の研究	10	植物の多様な遺伝資源の収集と保存	農業の近代化とともに少数の作物品種しか栽培されなくなるなど、長い年月をかけて地域で育まれた作物の遺伝的多様性は急速に失われている。しかし、新たな作物の開発や品種改良には多様性を有する遺伝資源が不可欠である。持続的に利用できるように遺伝資源を探索し保存する努力を紹介する。	2015/11/5			根本 博	農業生物資源研究所
	11	遺伝資源をめぐる国際情勢	2010年に名古屋で開催された、生物多様性条約国際会議(cop10)などにより、遺伝資源の収集・利用に対する国際的な関心が深まるとともに、状況が大幅に変化してきている。これらの状況について、新たな作物の開発や知的財産などの取扱い等と遺伝資源の収集利用という視点から現在の国際情勢を解説する。	2015/11/12			土門 英司	
	12	突然変異研究へのいざないー放射線による変異創出ー	ガンマーフィールドなどでのガンマー線照射によって育成された、耐病性のナシ「ゴールド二十世紀」やリンゴ「放育印度」、腎臓病患者が利用可能な低蛋白イネ品種、いろいろな色と形のキウイバラ、緑度が維持されるシバ「ウィンターフィールド」などの品種や、最近のゲノム研究や海外の状況を紹介します。	2015/11/19			土師 岳	
植物科学の先端研究	13	未定	未定	2015/11/26			未定	
昆虫科学の先端研究	14	環境保全型農業を実現する技術の開発	現在、農業は投入するエネルギー量を削減し、生態系に影響の少ない低投入・持続可能な生産技術の実現が求められている。ここでは生態系に影響の少ない総合的害虫管理(IPM)を実現する要素である昆虫の行動を利用した防除技術について紹介する。	2015/12/3			安居 拓恵	
動物科学の先端研究	15	動物性タンパク質の供給から医薬分野への貢献まで	現在の畜産業が抱える問題の解決、ならびに良質な動物性タンパク質の持続的生産に資する最新研究成果を紹介する。更に、動物研究の新たな展開として、進展の著しい体細胞クローン技術と遺伝子組換え技術を活用した医薬分野への貢献についても紹介する。	2015/12/10			竹中 昭雄	